活動紹介 5

地域に自信と誇りを醸成するまちづくり活動

岡山県瀬戸内市 牛窓しおまち唐琴通りの保存と活性化プロジェクト

牛窓しおまち唐琴通りの保存と活性化プロジェクト事務局長　岡　國太郎

まちをとりまく概況

岡山県瀬戸内市牛窓町は瀬戸内海国立公園内に位置する温暖で風光明媚な土地である。古くは万葉集の時代から潮待ち、風待ちの港町として栄え、江戸時代には朝鮮通信使の寄港地でもあり、落ち着いた町並みは歴史と文化の香りのする、趣のあるまちである。

しかしながら、そうした魅力あるまちではあるものの、少子高齢化が進み、造船業等の地場産業の衰退にも伴い、JRの駅のある隣町に人口流出が進み、過疎化の急速な進展に伴い、空き家も増え続け、子どもの声も聞こえない上に高齢化率も40パーセント近い独居老人ばかりが目立つまちとなっていた。

転機

そうした状況の中、平成21年3月に還暦を機に母の介護のために筆者が兵庫県からUターン帰郷した。25年ぶりに帰郷した当初は、母の介護と晴耕雨読の生活を目論んでいたが、昔なじみの近所の人々と話をするたびに言いえぬ違和感を感じるようになっていった。

それというのも、気候温暖で風光明媚な上に、地産の魚や野菜も美味でこんな暮らしやすいまちはないと日々感じる生活の中、近所の人の嘆き節ばかりが耳に入ってくるからであった。「昔はにぎやかだったまちなのに、こどもはおりゃーへんし、居るのは年寄りばーじゃ」、「いまさら何をしてももう手遅れじゃ」等々…。

そうした日々の中で、地元で起こった孤独死事件を機に、高齢者の見回り支援活動をしているグループの人々と話しているうち、「趣のある町並みを保存できないものか」との相談を受けた。そこでそうした活動をしている人々がいるのならと、それを基盤にして、新たなまちおこし活動グループを立ち上げた。平成21年9月のことだった。

ねらいとしたこと

まちおこしグループの名前は、港町の趣を残す町並み一帯の名前である「牛窓しおまち唐琴通り」を冠にし、目指す命題である町並みの保存と活性化を合わせたものに決定した。そして会則の目的の項には「地

域に住む人々の誇りを醸成し、古い時代からの港町としての風情と景観を留めている本地域一帯の町並み保存と活性化を目指す」と謳った。

まちおこし活動の基本は観光客呼び込みのためのウケ狙いの一過性のイベント作りではなく、地域の暮らしに根ざした伝統文化、食文化等の見つめなおしと掘り起こしを図り、そのことによって地域の人々が「ここにはこんな良いものがあったのだ」と実感できるまちづくりをしていこうとしたのだった。

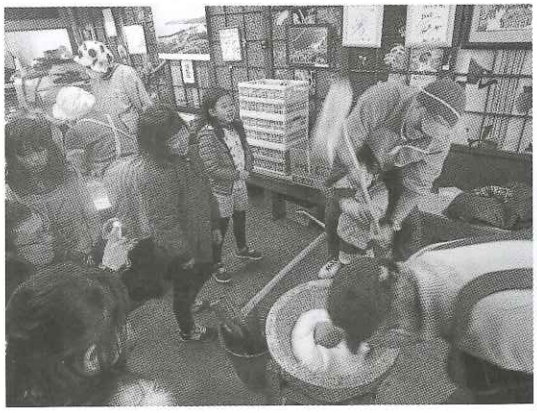
主な活動の数々

(1) トヨタ財団の助成金を受ける

活動団体を立ち上げてまず問題となったのは活動資金のことだった。取りあえず年会費（個人会費千円、法人会費5千円）を集めることとはしても年に10万円足らずしかないことになり、コピー代にもことかく有様だった。そこで助成金を得ることを思いついたものの、多くの助成団体は過去の実績を条件としているので対象外だった。そうした中、トヨタ財団の助成要綱を見ると実績は問わず、地域社会の課題解決のための「仕組みづくり」を公募していた。そして助成期間は最長2年間とのことだったのでダメもと精神で2年分の助成を申請したところ平成22年から2年間で326万円の助成を受けることができ、活動に弾みがついた。

(2) 活動拠点「まちかど交流プラザ風まち亭」の開設

上記トヨタ財団の助成金や瀬戸内市の助成金を基に、活動拠点と地域の人々や観光客の交流の場として「まちかど交流プラザ風まち亭」を開設した。このことにより地域での位置づけが明確となるとともに、オープンカフェの開設など地域に密着した活動の展開が図れ、地域に溶け込んだスペースとなっている。



風まち亭での餅つき風景

(3) 八朔ひな飾りとししこま作り

帰郷した当座、まだ軽度認知症だった母が「昭和18年に牛窓に嫁いできて驚いたことに、8月になるとひな飾りをしたことだった」と言った一言が心に残った。これは牛窓では八朔（旧暦8月1日）に、初節句を迎える娘のいる家では、ひなを飾り娘の健やかな成長を祈る風習のことであった。またそのひな飾りには「ししこま」と呼ばれる米粉で搗いた餅で山海の産物を形作ったものをひな飾りにお供えする習わしがあり、現在は「ししこま保存会」が組織され、瀬戸内市の無形民俗文化財にも指定されている。

そこで、ししこま保存会の協力を得て、

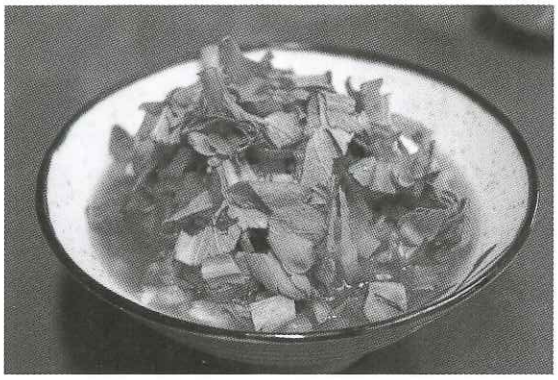
町屋に飾られた八朔ひな飾り

廃れつつあった八朔ひな飾りの風習の復興を図った。地域の空き家を含む町並み一帯の30数軒の各家々の門先にひなを飾りつけてもらい、見学者が町並みを歩いて巡るイベントにした。このイベントは地域の人にも好評を博した上に、NHKテレビで「夏のひなかざり」として取り上げられ、全国に生中継もされた。今年も9月1日から4日間、9回目を開催する予定である。

(4) 郷土料理

「水夫（かこ）のじゃぶじゃぶ」

上述した八朔ひな飾り同様に「くらしの文化」の見直しを図り、暮らしにもっとも密着した食文化にも注目した。あるとき牛窓でシーカヤックのツアーを主宰している大阪出身の人から「牛窓らしい食べ物で一皿で済む料理はないですか」との問い合わせがあり、拙宅で冬場のまかない料理であるゲタ（舌平目）のミンチで野菜を煮込んだ汁かけ飯をだしたところ大好評だった。この料理は昔にはどの家でも作られていたが、洋食化の風潮の中で廃れかけていた料理であった。またうちのはトッピングにはネギではなく春菊を使い、決め手はわさびを添えて汁に溶かして食す点が珍しかったのだろう。それに私が「これは汁かけ飯なので汁をジャブジャブにかけるように」と言うと、「ジャブジャブって面白いですね」との反応を得たことをヒントに、ネーミングを考えた。万葉時代からの港町牛窓になぞらえて、万葉集にも出てくる船乗りを表す古語である「水夫（かこ）」を用いて「水夫（かこ）のじゃぶじゃぶ」とネーミングして、特許庁に商標登録の申請をして認証を受けた。合わせてレトルト食品化もしてみやげ物として販売もしている。



水夫（かこ）のじゃぶじゃぶ

(5) その他の活動

上記のほかの活動として、「牛窓しおまちアート」というイベントも毎年10月に実施している。これは町並みの家々の門先に近在のアーティストが作品を展示販売し、見物者は町並みを巡って買い物を楽しむイベントで6回目の今年は9月28日から3日間行われる。

また、空き家対策として移住促進活動にも尽力している。牛窓には空き家は多数あるのだが、荷物や仏壇等がそのまま残っていて、貸家はほとんどない状況であった。そこでわれわれが家主と話し合って入居希望者との間を取り持ち、入居者を増やすところとなり、外国人を含む十数軒に入居を実現し、子どもの数も10人以上増やすことができ、まちに賑わいが帰ってきている。こうした活動が認められ瀬戸内市の移住促進策「IJUコンシェルジュ」に認定されている。

今後もこうした活動を仲間とともに、楽しみながら続けて地域の活性化に寄与していきたいと思っているところである。

商標登録証

登録第5372233号

水夫のじゃぶじゃぶ

岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓3038

岡　國太郎

平成22年12月 3日

特許庁長官

岩井良行

水夫のじゃぶじゃぶ商標登録証